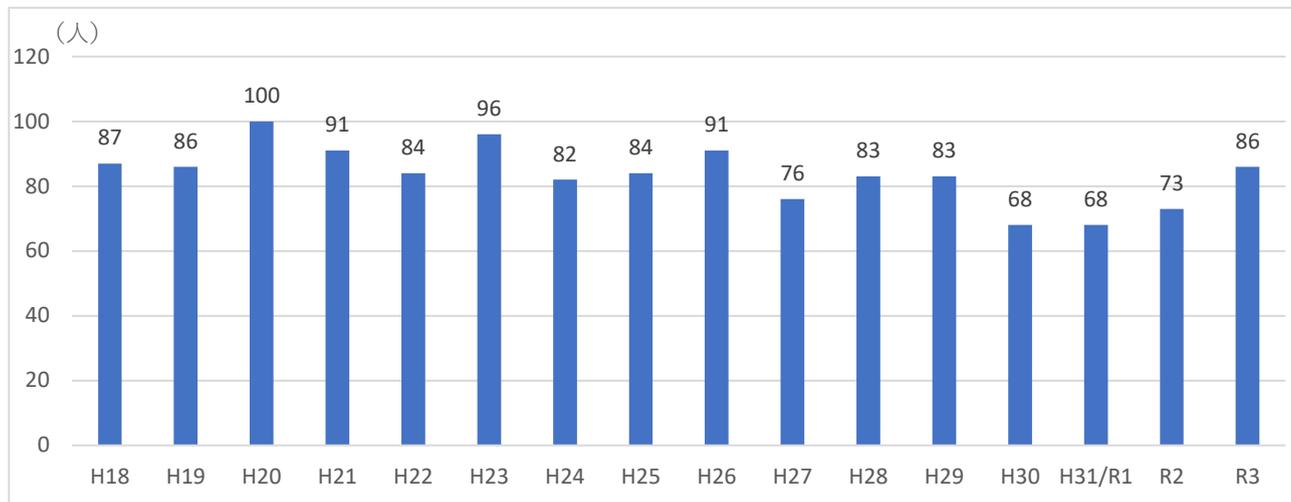


第 3 章 市川市における自殺の現状

1 市川市の自殺者数の推移

平成20年の100人をピークに、以後は増減を繰り返しながら横ばいで推移していましたが、平成30年以降増加傾向にあります。

図1 市川市自殺者数の推移(平成18年～令和3年)



【出典】千葉県「衛生統計年報」

2 自殺者数の推移 全国・千葉県・市川市

全国は平成21年の30,707人をピークに減少傾向にあり、平成28年以降は横ばいで推移しています。
 千葉県は平成23年の1,370人をピークに減少傾向で推移しています。

図2 自殺者数の推移の比較(平成21年～令和3年) ※全国値は1/10で表示

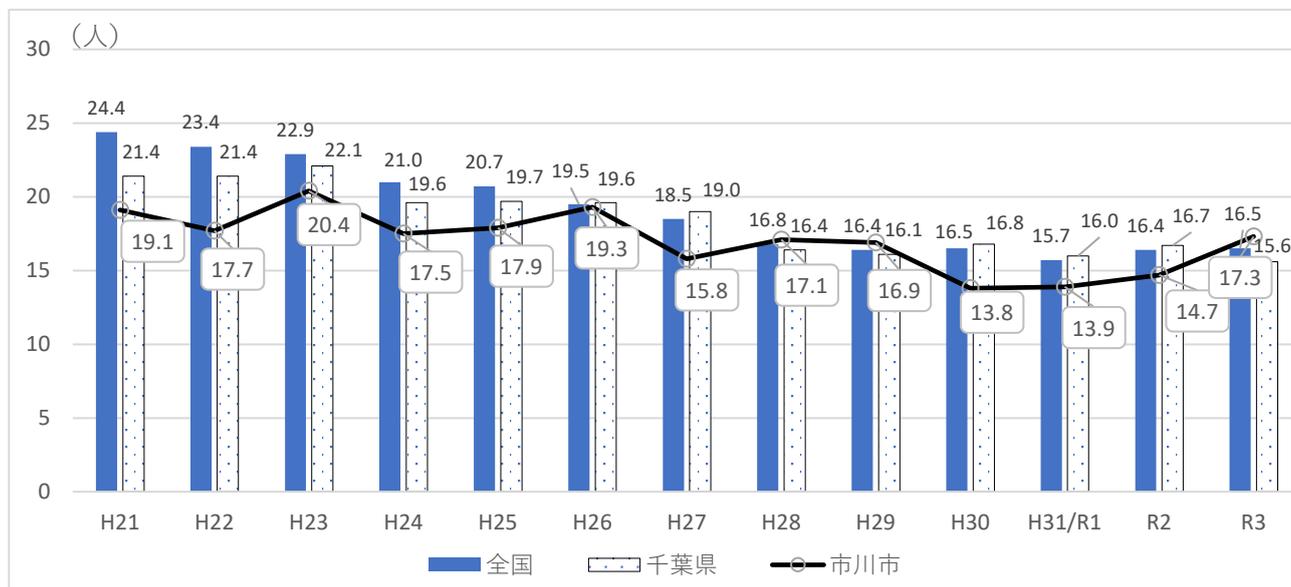


【出典】厚生労働省「人口動態統計」、千葉県「衛生統計年報」

3 自殺死亡率の推移

市川市の自殺死亡率は、全国や千葉県と比べて低い水準ではありますが、平成 28 年、平成 29 年、令和 3 年はやや高く、平成 30 年以降は増加傾向にあります。

図3 自殺死亡率の推移の比較(平成 21 年～令和 3 年)

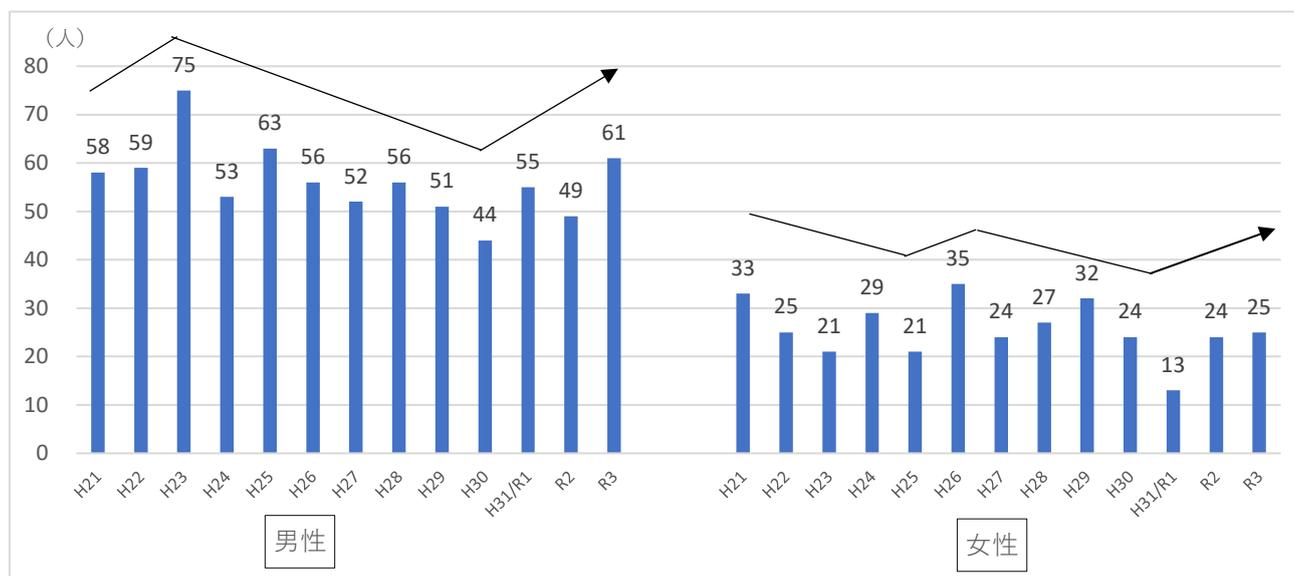


【出典】厚生労働省「人口動態統計」、千葉県「衛生統計年報」

4 男女別自殺者数の推移

男性が女性の 2 倍以上で推移しています。男性は平成 23 年をピークに増減を繰り返しながら減少傾向でしたが、平成 30 年以降は増加傾向です。女性も増減を繰り返していましたが令和元年以降は増加傾向にあります。

図4 市川市の男女別自殺者数の推移(平成 21 年～令和 3 年)

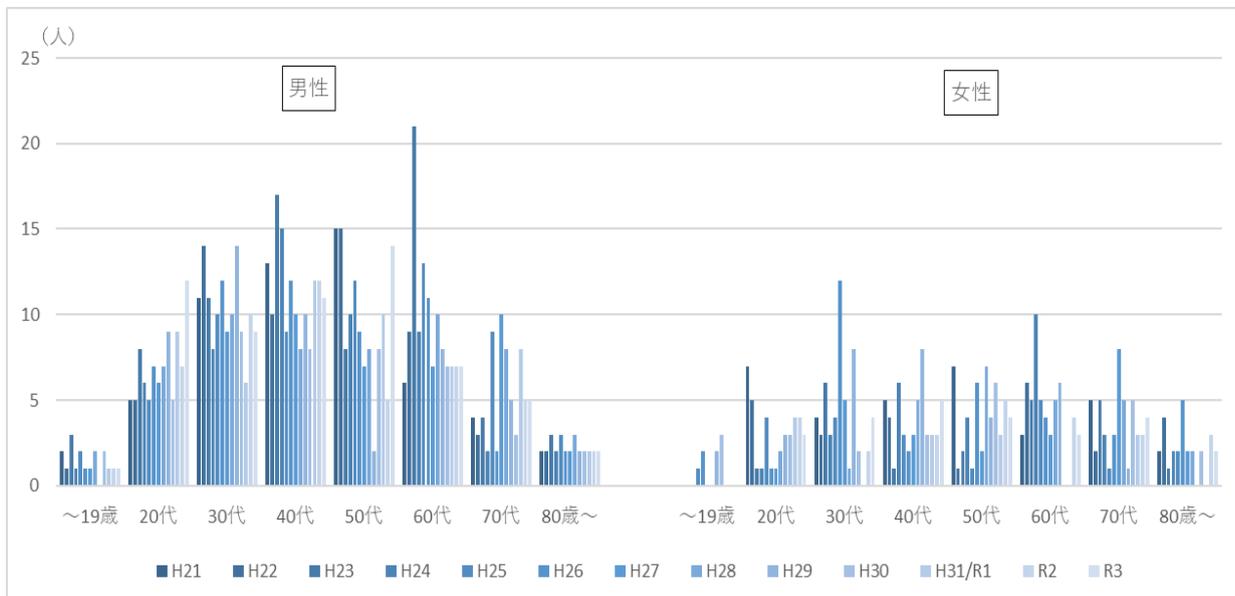


【出典】千葉県「衛生統計年報」

5 年代別自殺者数の推移

男性は20歳代、50歳代で増加傾向にあります。10歳代、60歳代、70歳代、80歳代で横ばいです。女性も、各年代で増減を繰り返しています。

図5 市川市年代別自殺者数の推移(平成21年～令和3年)



【出典】千葉県「衛生統計年報」

6 死因分類 全国・千葉県・市川市

市川市では、自殺による死因が全国、千葉県と比べ多くなっています。

表1 死因分類 全国・千葉県・市川市(令和3年)

区分	死因	全国		千葉県		市川市	
		令和3年	令和3年	令和3年	令和3年	令和3年	令和3年
		死亡数 (人)	構成割合 (%)	死亡数 (人)	構成割合 (%)	死亡数 (人)	構成割合 (%)
1	悪性新生物	381,505	26.5	17,808	27.3	1,074	26.6
2	心疾患	214,710	14.9	10,167	15.6	777	19.2
3	肺炎	73,194	5.1	3,636	5.6	183	4.5
4	脳血管疾患	104,595	7.3	4,667	7.2	269	6.7
5	老衰	152,027	10.6	6,394	9.8	420	10.4
6	不慮の事故	38,355	2.7	1,412	2.2	70	1.7
7	自殺	20,291	1.4	978	1.5	86	2.1
8	腎不全	28,688	2.0	1,138	1.7	78	1.9
9	大動脈瘤及び解離	19,351	1.3	854	1.3	53	1.3
10	肝疾患	18,017	1.3	796	1.2	43	1.1
11	慢性閉塞性肺疾患	16,384	1.1	711	1.1	34	0.8
12	その他	372,739	25.9	16,683	25.5	956	23.7
	合計	1,439,856	100.1	65,244	100	4,043	100

【出典】千葉県「衛生統計年報」

7 市川市の主な死因の状況

男性は、10歳代～30歳代において自殺が死因の1位となっており、若い世代において深刻な問題となっています。また、40歳代では死因の2位、50歳代では死因の3位となっており働き盛りの世代での自殺も問題となっています。

表2 市川市 男性の主な死因(令和3年)

	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代	自殺	—	—	—	—
	心疾患				
	神経系疾患				
	その他の神経系疾患				
20歳代	自殺	がん	不慮の事故	—	—
			他殺		
			その他		
30歳代	自殺	心疾患	がん	—	—
			脳血管疾患		
			消化器系疾患		
			不慮の事故		
40歳代	心疾患	自殺	がん	脳血管疾患 その他	—
50歳代	心疾患	がん	自殺	その他	消化器系疾患
60歳代	がん	心疾患	その他	脳血管疾患	消化器系疾患
70歳代	がん	心疾患	脳血管疾患	その他	肺炎
80歳代以上	がん	心疾患	老衰	その他	脳血管疾患

【出典】千葉県「衛生統計年報」を加工

女性は、20歳代～60歳代の各年代の死因の上位に自殺が入っている現状です。特に20歳代、30歳代の死因の1位が自殺となっていることから、女性の自殺が深刻化しています。

表3 市川市 女性の主な死因(令和3年)

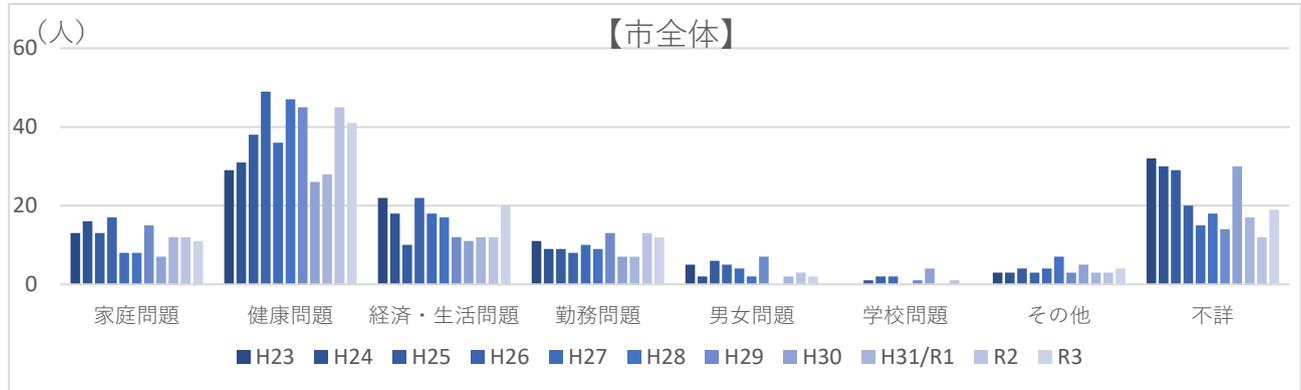
	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代	がん	—	—	—	—
20歳代	自殺	不慮の事故		—	
		がん			
30歳代	自殺	不慮の事故		心疾患	
		がん		消化器疾患	
40歳代	がん	自殺		神経系疾患	消化器系疾患
		心疾患			
50歳代	がん	心疾患	自殺	脳血管疾患	
				消化器疾患	
60歳代	がん	心疾患	消化器系疾患	自殺	
				その他	
70歳代	がん	心疾患	脳血管疾患	神経系疾患	その他の呼吸器系疾患
80歳代以上	老衰	心疾患	がん	脳血管疾患	その他の呼吸器系疾患

【出典】千葉県「衛生統計年報」を加工

8 市川市の原因・動機別自殺者数の推移

原因・動機が明らかなもののうち「不詳」を除くと、健康問題、経済・生活問題、家庭問題の順で多くなっています。

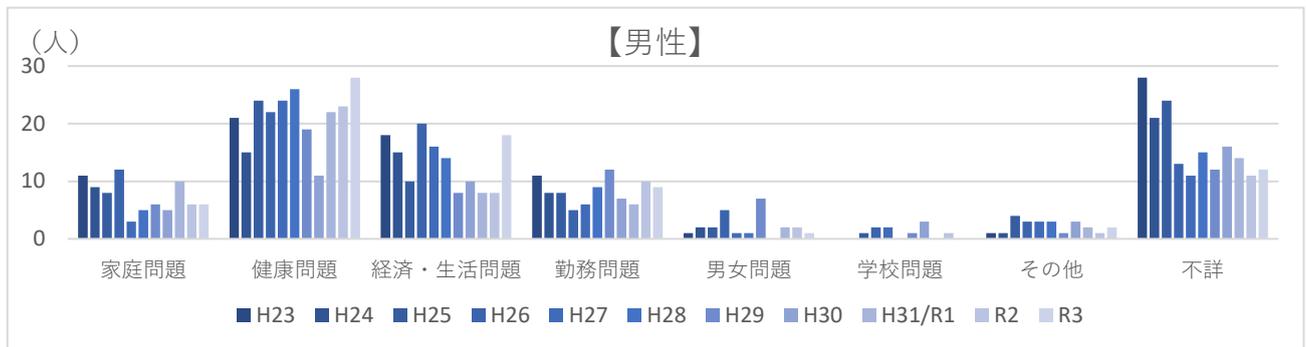
図6 市川市「原因・動機別」自殺者数(平成23年～令和3年)



【出典】厚生労働省「地域における自殺の基礎資料(自殺日・住居地)」

男性は、健康問題、経済・生活問題、勤務問題の順で多くなっています。特に、健康問題や経済・生活問題は平成30年以降増加しています。

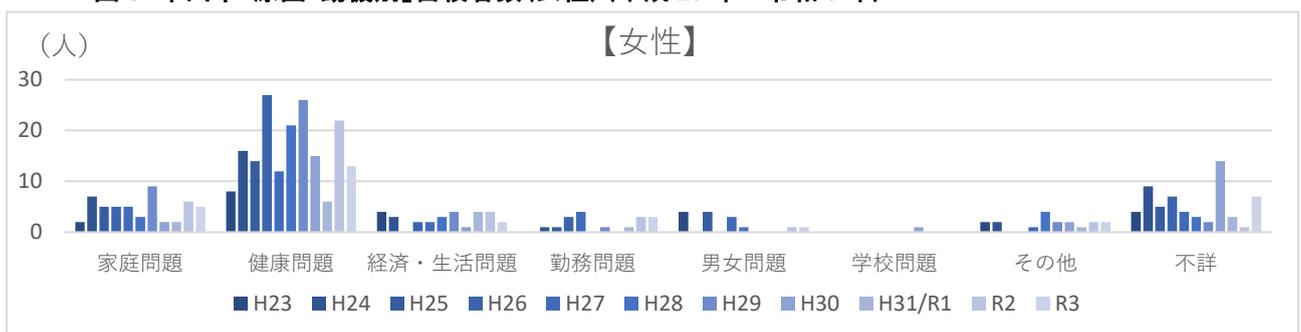
図7 市川市「原因・動機別」自殺者数(男性)(平成23年～令和3年)



【出典】厚生労働省「地域における自殺の基礎資料(自殺日・住居地)」

女性は、健康問題、家庭問題、経済・生活問題の順に多くなっています。中でも、健康問題は突出して多くなっている状況です。

図8 市川市「原因・動機別」自殺者数(女性)(平成23年～令和3年)

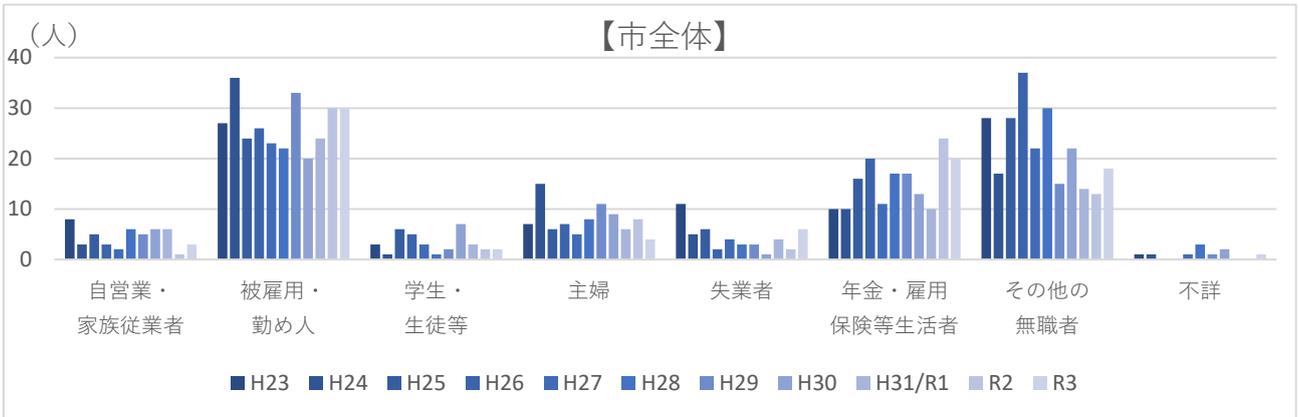


【出典】厚生労働省「地域における自殺の基礎資料(自殺日・住居地)」

9 市川市における職業別自殺者数の推移

職業別にみると、被雇用・勤め人、その他の無職者、年金等生活者の順に多い状況です。

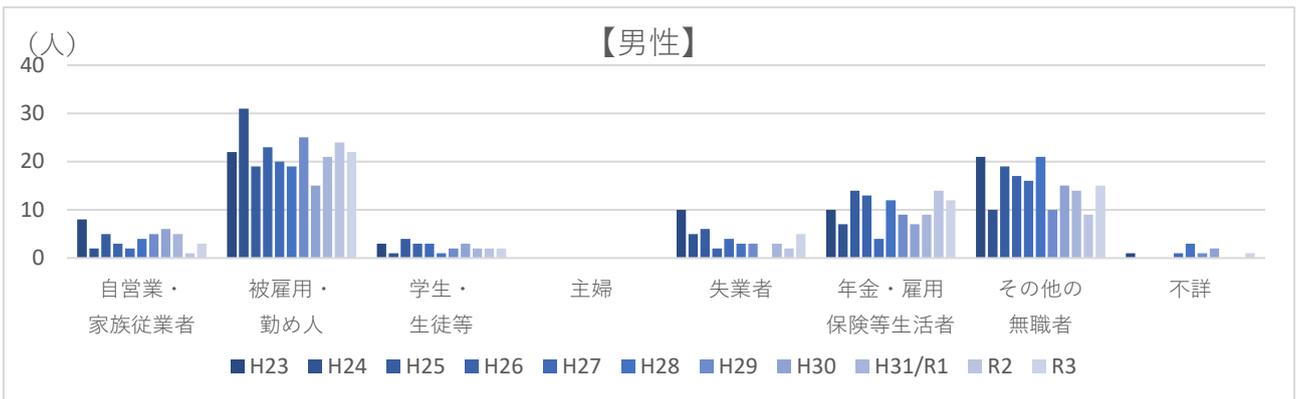
図9 市川市「職業別」自殺者数の推移(平成23年～令和3年)



【出典】厚生労働省「地域における自殺の基礎資料(自殺日・住居地)」

男性は、被雇用・勤め人、その他の無職者、年金・雇用保険等生活者の順に多い状況です。

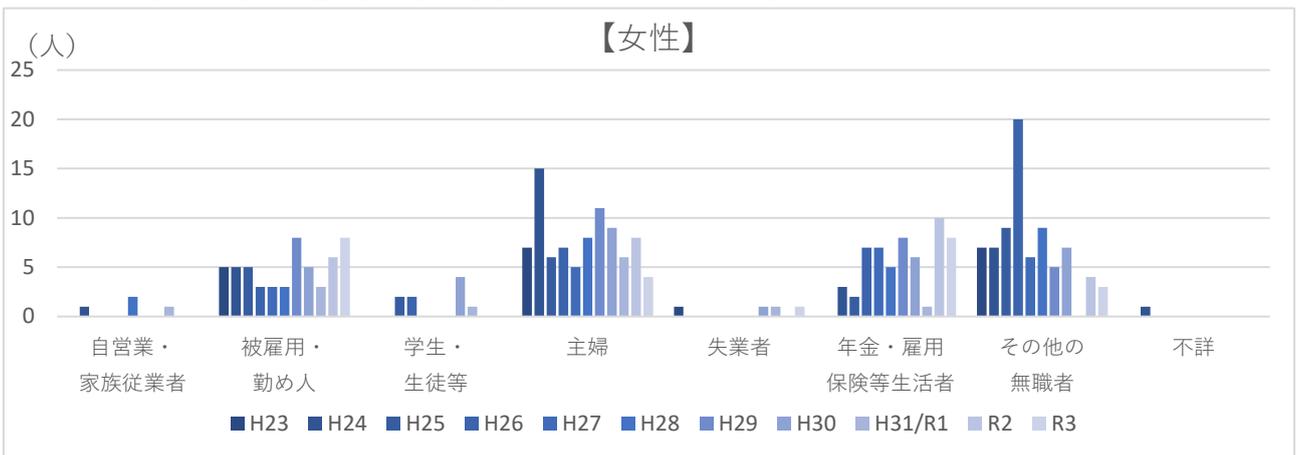
図10 市川市「職業別」自殺者数の推移(男性)(平成23年～令和3年)



【出典】厚生労働省「地域における自殺の基礎資料(自殺日・住居地)」

女性は、被雇用・勤め人が近年増加傾向にあります。主婦やその他の無職者は減少傾向となっています。

図11 市川市「職業別」自殺者数の推移(女性)(平成23年～令和3年)

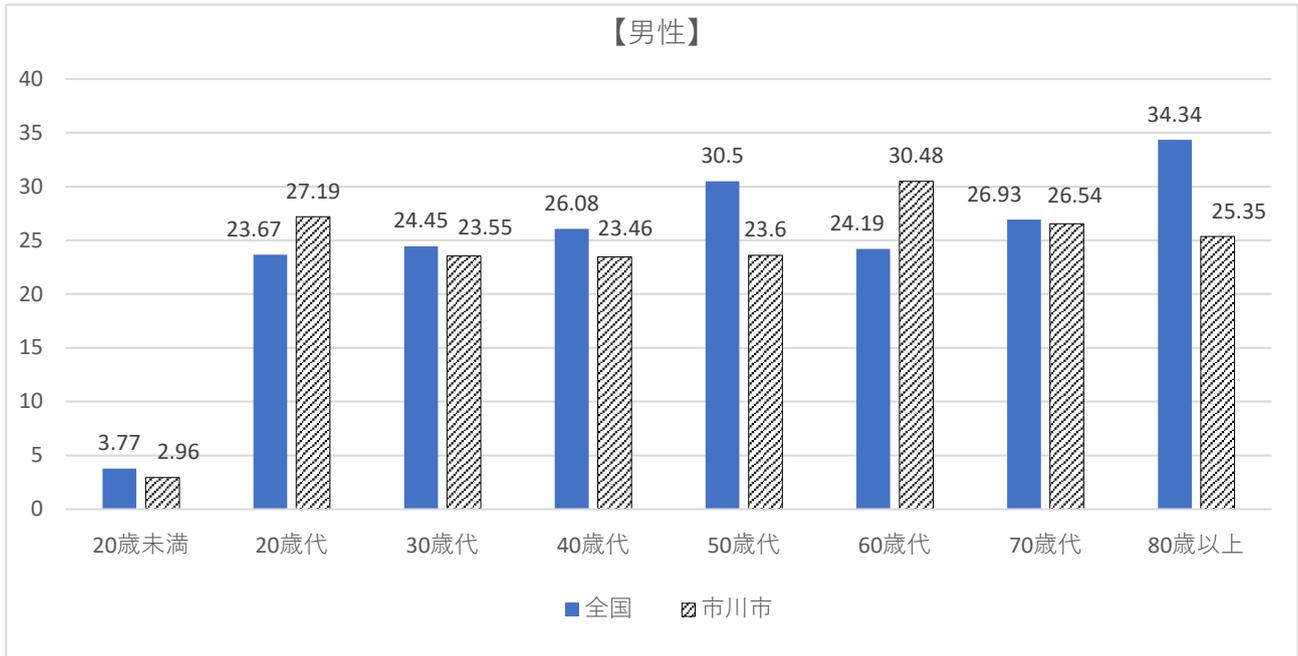


【出典】厚生労働省「地域における自殺の基礎資料(自殺日・住居地)」

10 年代別自殺死亡率の推移 全国・市川市

男性は、20歳代、60歳代において全国と比べ自殺死亡率が高くなっています。

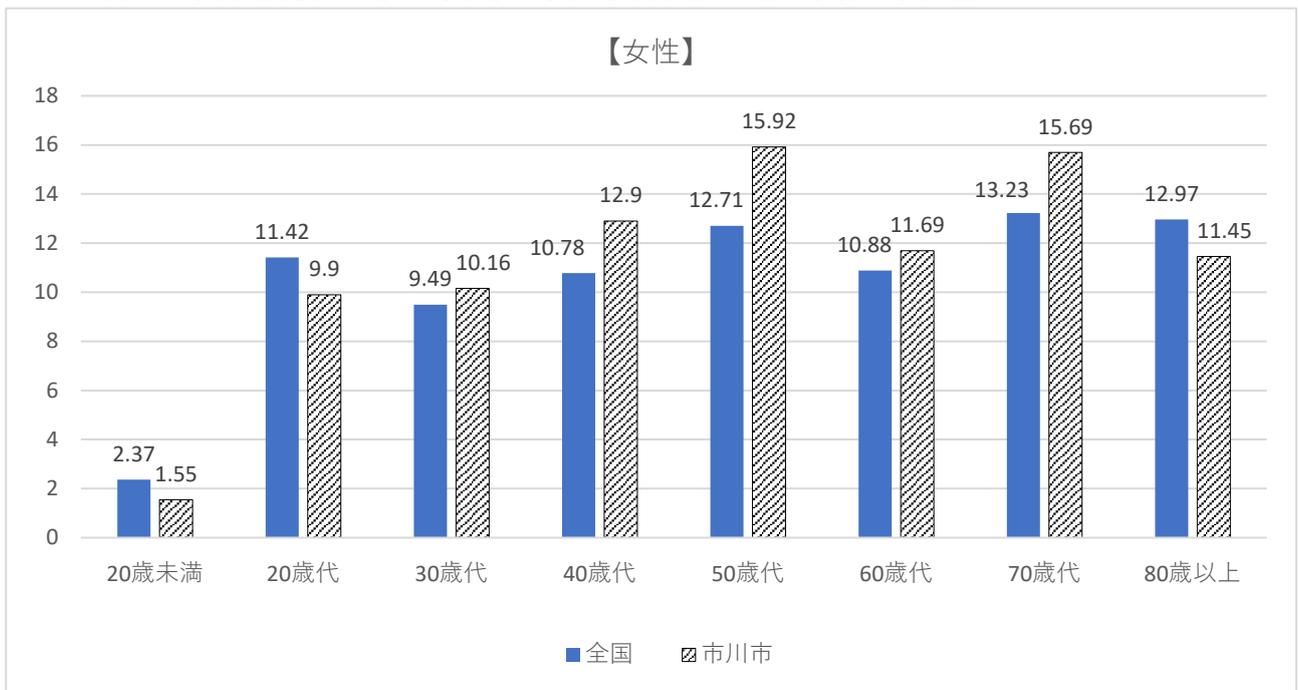
図12 年代別自殺死亡率 全国・市川市(男性)(平成29年～令和3年平均)



【出典】いのち支える自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022 更新版」

女性は、30歳代～70歳代までの各年代にて全国と比べ自殺死亡率が高くなっています。

図13 年代別自殺死亡率 全国・市川市(女性)(平成29年～令和3年平均)



【出典】いのち支える自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022 更新版」

11 男女別の同居等の状況及び職業の有無別自殺死亡率 全国・市川市

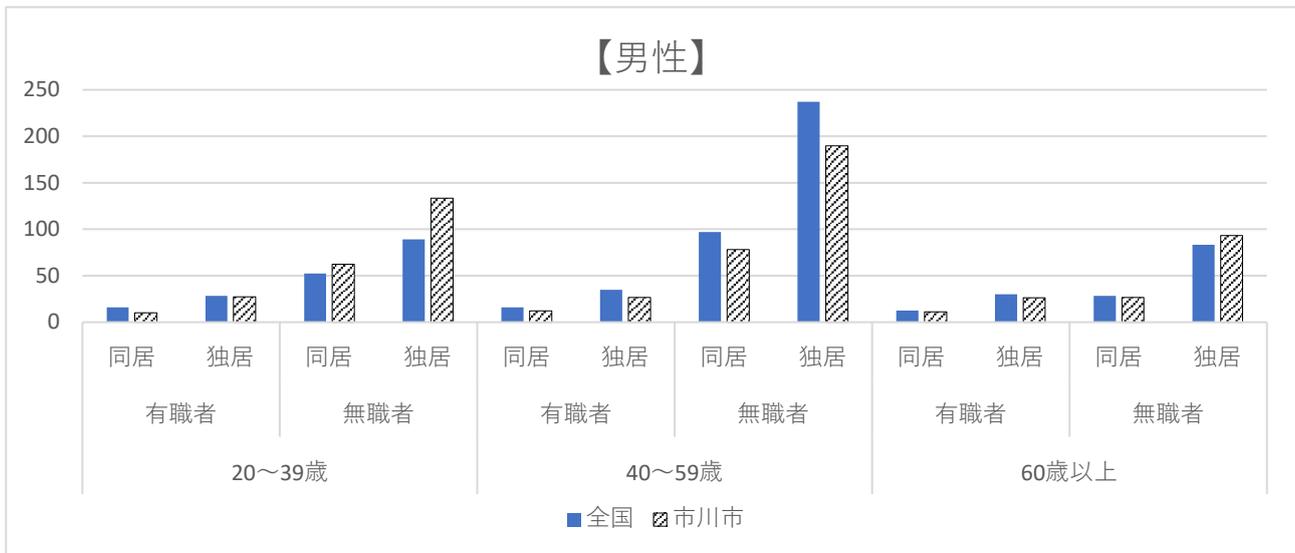
※職業の有無の内訳

有職者・・・被雇用・勤め人、自営業・家族従事者

無職者・・・主婦、失業者、年金・雇用保険等生活者、その他無職者

男性は20～39歳の同居・無職者、20～39歳の独居・無職者、60歳以上の独居・無職者が全国に比べ高い状況です。

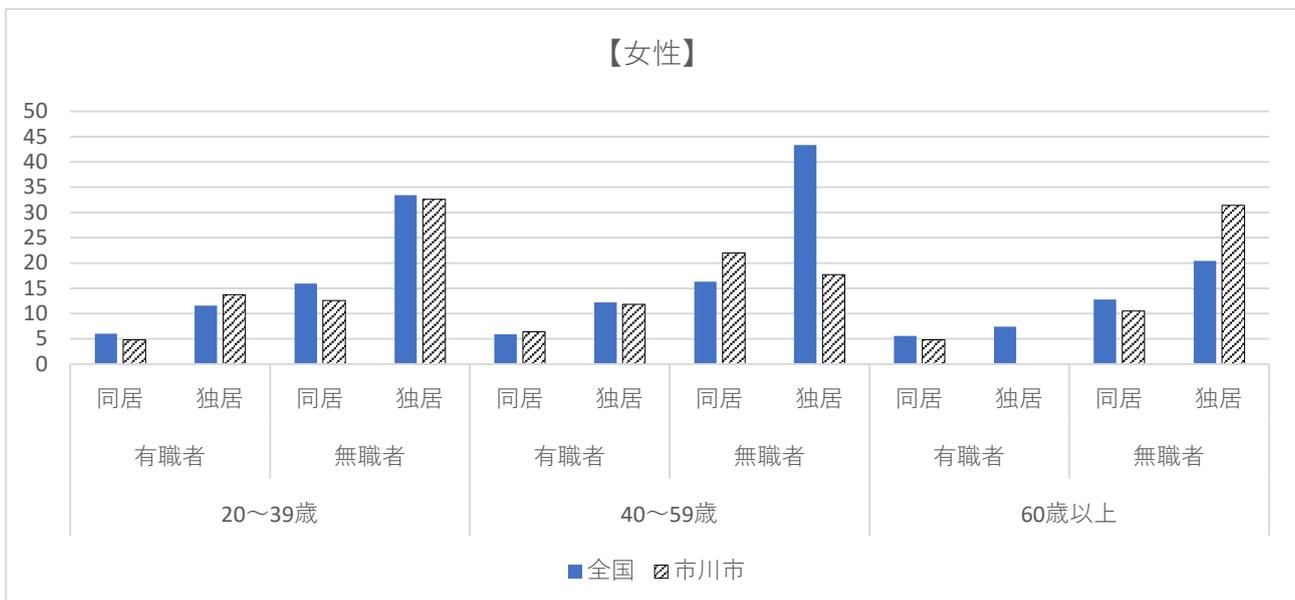
図14 男女別同居等の状況及び職業の有無別自殺死亡率 全国・市川市(男性)(平成29年～令和3年合計)



【出典】いのち支える自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022 最新版」

女性は、20～39歳独居・有職者、40～59歳同居・無職者、60歳以上独居・無職者が全国に比べ高い状況です。

図15 男女別同居等の状況及び職業の有無別自殺死亡率 全国・市川市(女性)(平成29年～令和3年合計)



【出典】いのち支える自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022 最新版」

12 小・中・高・大学生・専修学校生等の自殺の原因・動機の比率（全国）

小学生では、不詳を除くと「家庭問題」「学校問題」の順に高くなっています。「家庭問題」では、男女ともに「家族からのしつけ・叱責」が高く、女子は「親子関係の不和」がこれに次いでいます。「学校問題」では、男女ともに「その他学友との不和」が高くなっています。

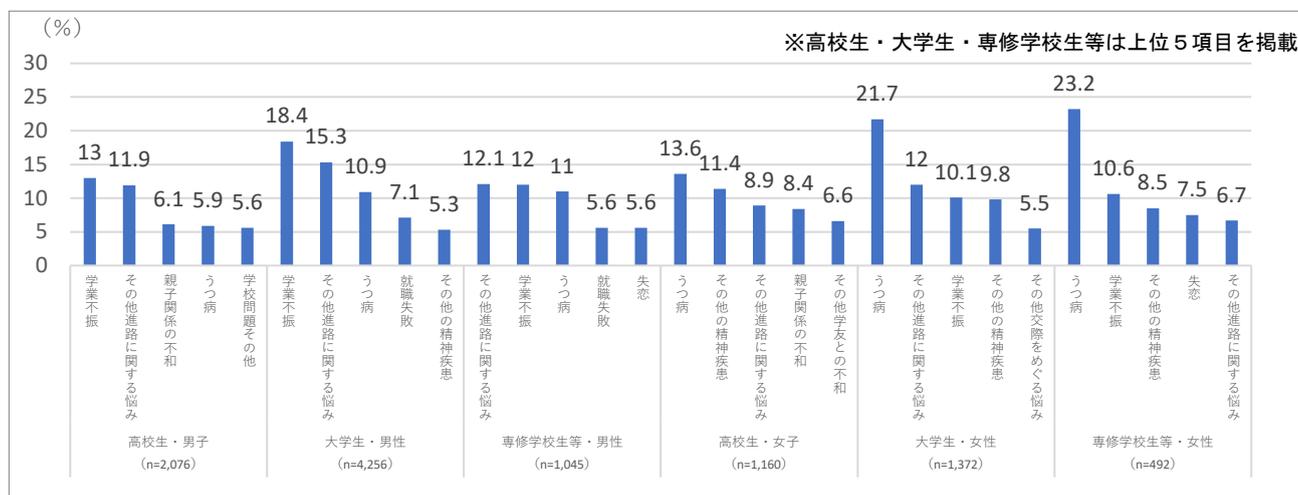
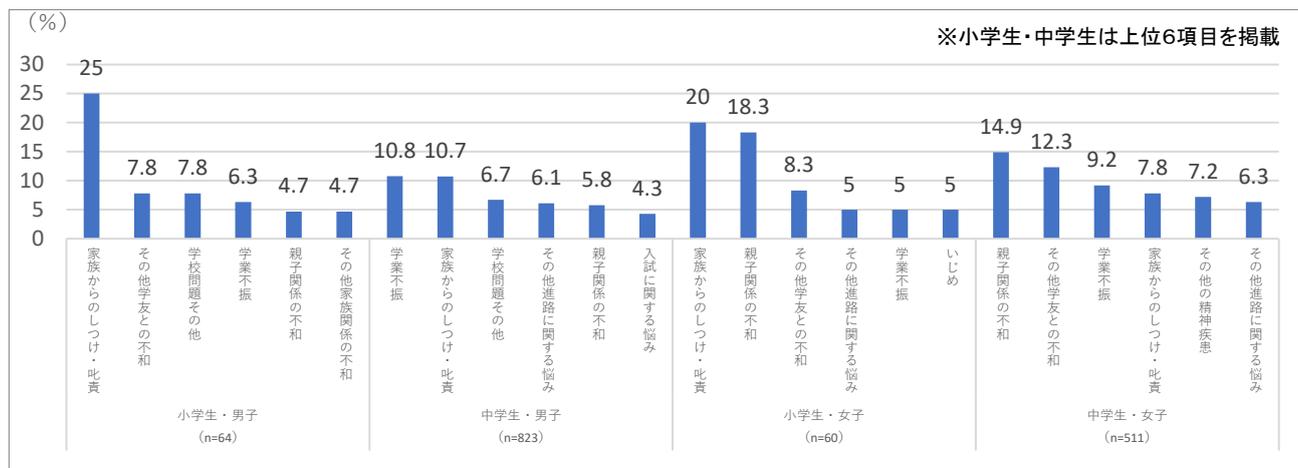
中学生では、不詳を除くと「学校問題」「家庭問題」の順に高くなっており、「学校問題」では、男子は「学業不振」、女子は「その他学友との不和」の割合が高くなっている状況です。また「家庭問題」では、男子は「家族からのしつけ・叱責」、女子は「親子関係の不和」の割合が高くなっています。

高校生では、不詳を除くと男子では「学校問題」「健康問題」の割合が高く、「学校問題」では「学業不振」「その他進路の悩み」が高くなっています。女子では、「健康問題」の割合が最も高く「うつ」「その他の精神疾患」の割合が高い状況です。大学生、専修学校生等は、高校生と同様の傾向となっています。

内閣府の「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」によると、我が国は調査対象となった諸外国に比べ、家庭生活や学校生活に不満を持っている若者の割合が最も高いことがわかっています。また、家庭生活や学校生活に不満と回答した若者の割合が高い国で自殺死亡率が高いこととの関係がみられていることから、学生・生徒の自殺死亡率の高さは、家庭生活や学校生活の状況の受け止め方に関連している可能性が考えられます。

学年が上がるほど周囲への援助を求めることが難しいこと、保護者も子どもの異変に気付いても受診に至らない場合があることが示唆されています。様々な子どもの心の問題に対応するため、医療機関や保健福祉関係機関等と連携した支援体制の構築が必要不可欠となります。

図 16 小・中・高・大学・専修学校生等の自殺の原因・動機の比率(全国)(平成 21 年～令和 3 年)

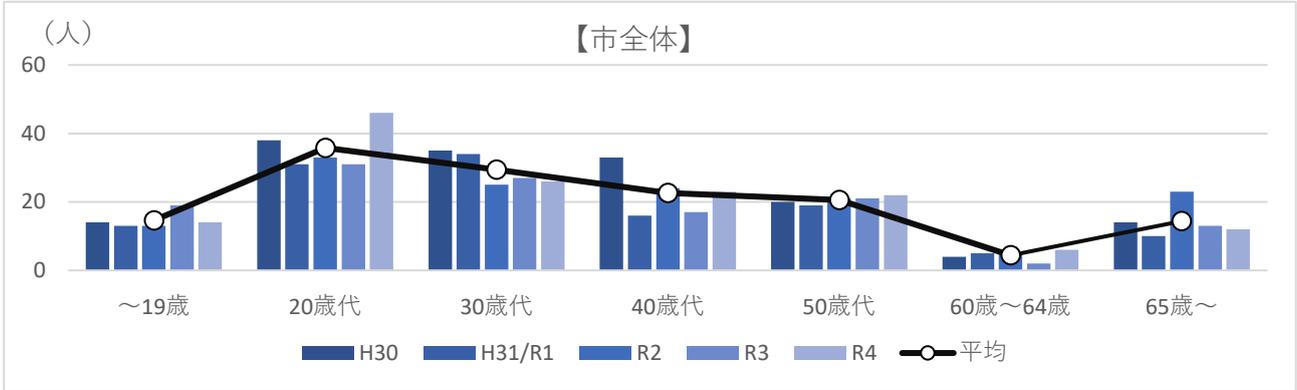


【出典】内閣府「令和4年版自殺対策白書」加工

13 市川市における自損行為による搬送状況の年代別推移

市全体では、20歳代での救急搬送数が最も多く、令和4年が突出しています。50歳代では横ばいで推移していますが、その他の年代では増減を繰り返しております。

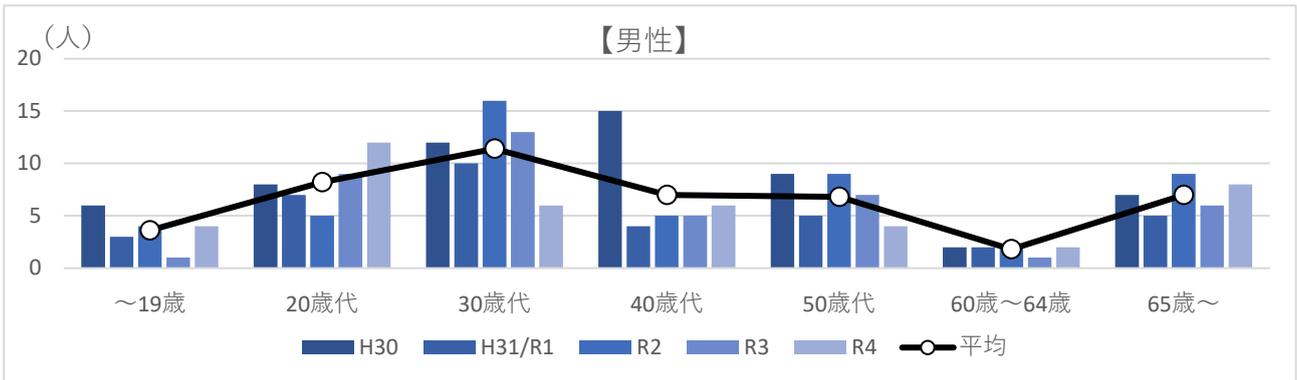
図17 市川市 年代別自損行為による搬送状況(平成30年～令和4年)



【出典】市川市消防年報

男性は、30歳代の救急搬送数が多く、令和2年が突出しています。40歳代、60～64歳は横ばいですが、その他の年代では増減を繰り返しています。

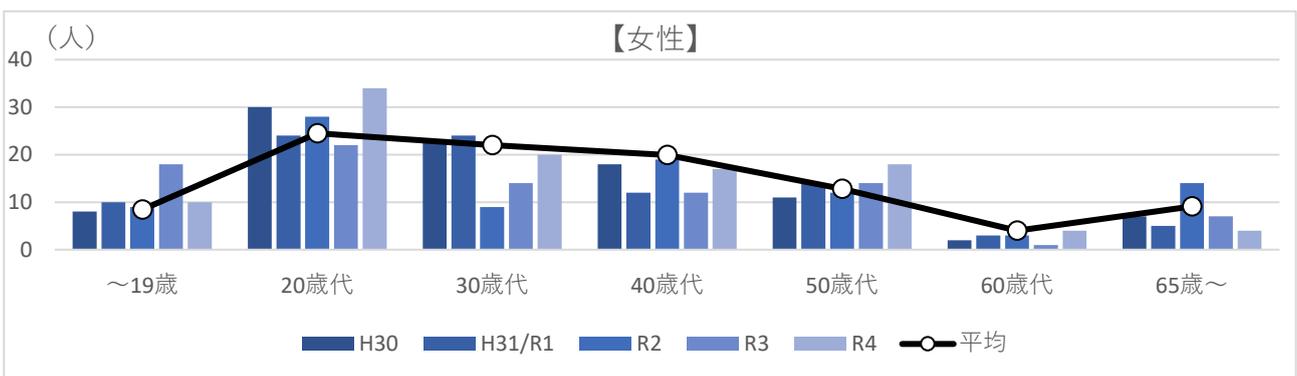
図18 市川市 年代別自損行為により救急搬送(男性)(平成30年～令和4年)



【出典】市川市消防年報

女性は、男性の2倍以上の救急搬送数であり、20歳代の救急搬送数が最も多くなっています。～19歳、65歳以上の年代では減少していますが、その他の年代では増加しています。

図19 市川市 年代別自損行為による救急搬送(女性)(平成30年～令和4年)

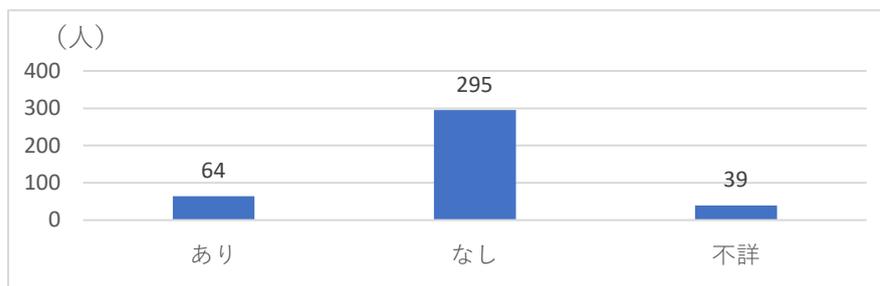


【出典】市川市消防年報

14 市川市の自殺者における未遂歴の総数

自殺未遂歴がない人は70%以上を占めています。

図20 市川市の自殺者における未遂歴の総数(平成29年～令和3年合計)



【出典】いのち支える自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル 2022 更新版」

15 乳児家庭全戸訪問におけるEPDS(エジンバラ産後うつ病質問票)の結果

乳児家庭全戸訪問時にEPDS^{※1}を実施した産婦のうち、メンタルヘルス支援が必要とされた産婦は増減を繰り返しながら減少傾向にあります。一方、自殺念慮^{※2}・自殺企図の項目に加点した産婦は、平成30年以降増加傾向にあります。

表4 乳児家庭全戸訪問におけるEPDSの結果より自殺念慮・自殺企図のあった産婦の数

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
訪問総数	3,312		4,246		3,895		4,242		4,319		4,469		4,009		4,017		3,813	
EPDS 9点以上	232	7	325	7.7	486	12.5	461	10.9	376	8.7	356	8.0	378	7.4	383	9.5	295	7.7
自殺念慮・自殺企図の項目に加点	71	2.1	99	2.3	140	3.6	129	3	95	2.2	88	2	94	2.3	101	2.5	100	2.6

【出典】市川市保健師活動報告書

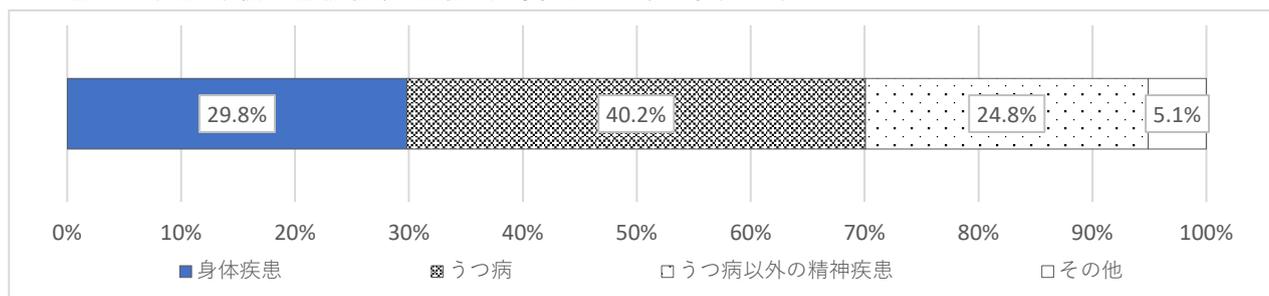
※1 EPDS … 産婦自身による自己記入式質問票で、うつ病によくみられる症状を質問にしており、メンタルヘルスの状況を確認します。質問項目は全部で10問あり、1問につき4つの選択肢があります。0～3点の4件法で、合計を30点満点とし、我が国では9点以上をうつ病の可能性が高いとしてスクリーニングしています。質問10は産後うつ病による自殺念慮、自殺企図の有無を確認する質問であり、この質問に限り1点以上の回答があった場合に、総合点がたとえ9点以下でも、内容を具体的に聴き、今後の援助方法を示し、自殺、自傷行為ははっきり止めていきます。
(「産後の母親と家族のメンタルヘルス・自己記入式質問票を活用した育児支援マニュアル」より)

※2 自殺念慮…「死にたい」という考え。

16 原因・動機別自殺者数のうち健康問題の内訳 全国

健康問題で亡くなった自殺者の65%が、うつ病やそれ以外の精神疾患が原因・動機となっています。

図21 原因・動機別自殺者数 全国(健康問題の内訳・令和3年)



【出典】警察庁自殺統計「令和3年中における自殺の状況」

17 死亡小票における市川市の現状

令和4年厚生労働省人口動態統計死亡小票における市独自の調査から、次の4つの特徴が見られました。

①中高年の自殺が多い

本市では20～50代の自殺者が多く、特に男女とも50代の自殺者が多いことが明らかになっています。この年代は勤務問題、経済・生活問題、家庭問題等さまざまな問題が重なる時期であり、自殺の要因もさまざまです。この「働く世代」に焦点をあてた施策が重要になります。

②若い世代の自殺が増えている

10～20代の自殺者数の割合が増加しています。学校生活や家庭生活、社会人生活におけるストレスや悩みが自殺に関連していると考えられます。若い世代は周囲への援助を求めることが難しく、支援につながりにくいことから、心の問題に本人だけでなく周囲も気づき、対応できるような施策が必要です。

③女性の自殺が増えている

女性の自殺者数は令和元年以降増加傾向にあり、20歳代～60歳代の各年代の死因の上位に自殺が入っています。特に20歳代、30歳代の死因は1位であることから、女性の自殺が深刻化しています。

④低所得者の自殺が多い

男女とも有職者に比べ無職者の自殺死亡率が高く、特に独居の無職者が多いです。男性では自殺の原因・動機において、健康問題に次いで経済・生活問題が多く、女性も健康問題、家庭問題について経済・生活問題が多いことから生活困窮者への自殺対策の更なる取り組みが必要になります。